様式３（Ａ３横）

令和3年度　学校評価書　（計画段階 ・ 実施段階）

学校番号

福岡県立北九州高等学校

14

自己評価

学校の運営計画（４月）			評価（３月）
学校運営方針	The Main Creator（社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する人材）を育成する。 Think Globally（国際的な視野をもって考える）とAct Locally（地域で活躍する実践）を前面に出して教育活動を展開することで、The Main Creatorの基盤となる「体力（健康）」「学力（英知）」「豊かな心（情操）」とそれを将来にわたって貫くための「志（フロンティアスピリット）」を伸長する。		
昨年の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
学習面においては、コロナ禍の影響で休業が２か月ほど続いたが、職員研修等を行うことで、ICT機器の利用や配信授業による学習補償を行うことができた。今年度は、さらにICT機器を有効に利用し、生徒の学力向上に努めていきたい。	1　体験重視の教育推進	特別支援学校、幼稚園との交流会や近隣小・中学校との体育的行事や部活動指導の交流をコロナ禍においても実施方法を工夫して行い、生徒の体験活動を支援し、自尊感情の育成を図る。	
生徒指導面においては昨年度コロナ禍の影響で様々な学校行事が中止または延期となってしまった。今年度はコロナ禍においても実施方法を工夫して必要な学校行事を開催したい。また、生活指導における教師の共通理解を深め、基本的生活習慣の確立を図る。	2　部活動の奨励	（１）体験入部の実施と、成績表彰や掲示による部活動推進体制をつくり、高体連躍進校２０位以内を目指す。 （２）部活動の加入率が減少傾向にあるため、部活動紹介の見直しや部活動生徒が活動への意欲や意義を強く感じられるような企画を計画することで、入部率９０％以上を目指す。	
進路面においては進路ガイダンスやインターンシップにおいて各学年と連携を図り早期から内容、目標を検討・設定し、生徒の進路意識を更に高める。また、希望制課外、小論文・面接指導の更なる充実を図り、生徒の希望進路実現に向けて取り組んでいきたい。	3　きめ細やかな進路指導	（１）進路ガイダンス・インターンシップの実施により生徒の進路意識を更に高める。 （２）希望制課外、校外模試の効果的実施により、学力の更なる充実・定着を図る。 （３）進学指導では小論文・面接指導を充実させ、低年次から自己の進路について考えさせる。 （４）就職指導では各事業所との密接な関係を築き、就職率100%を継続させる。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（３月）	次年度の主な課題
学習指導	ICT機器を有効活用した授業改善を通じて生徒の基礎学力の定着を図るとともに、学びへ向かう態度を育成する。	研修課と連携し、アクティブラーニングやＩＣＴ機器の授業における活用についての研修会を開催することで、授業改善に向けての実践的方策を身につけ、生徒の基礎学力の定着を図る。		
		ICT機器を活用し、個に応じた指導を充実させ、主体的に学ぶ態度を育成する。		
	体験重視の教育活動を推進し、学習の基盤となる資質・能力を育成する。	地域・同窓会との交流を計画的に実施し、体験活動を充実させることで、新たな価値を見いだす豊かな創造性や、地域における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力を育成する。		
		学校行事に主体的に参加させることで、情報活用能力や問題発見・解決能力といった学習の基盤となる資質・能力を育成する。		
進路指導	キャリア教育を充実させ、志をもって新たな学びに向かう力と未来を生き抜く力を育てる。	各種ガイダンス、インターンシップ等の体験活動を充実させ、進路意識を更に高める。		
		大学訪問や職業理解等の進路ガイダンスを組織的・継続的に実施し、生徒が自らの将来像を考える機会を適宜設定する。		
		進路決定を最終目標とさせず、その先をも見据えた指導を行い、卒業まで自覚と緊張感を持った高校生活を過ごさせる。		
	長期的な視野に立ち、きめ細やかな指導を深化させるとともに、生徒の学力を伸長し、個々の希望進路を実現する。	低年次から出欠や評定等を意識させ、県外大学等も視野に入れた指導を継続して行い、幅広い選択肢から自己の進路を考えさせる。		
		希望制課外を更に充実させ、実力養成に努めるとともに、推薦・総合型選抜を中心とした進学指導を強化する。		
		受験指導（面接、小論文対策等）を戦略的に実行し、最後まであきらめず、挑戦し続ける指導を行う。		
生活指導	基本的生活態度の確立に向けて、全職員が共通した認識を持って指導の徹底を図り、規範意識及び自己指導能力の育成に努める。	遅刻・欠席・早退の防止を目指し、登校指導や挨拶運動を行うとともに家庭との連携を徹底する。		
		毎月1回程度、服装・頭髪指導を実施し、身だしなみへの意識を高める。		
		毎月いじめ対策委員会を開催し情報を共有するとともに、いじめの早期発見、早期対応、体制の整備、充実に努める。		
	部活動体験入部をはじめ、様々な活動を行うことで部活動加入率の向上を目指すとともに、部活動に所属している生徒が意欲的にそれぞれの活動を行うことができるように環境の整備に努める。	体験入部等を充実及び新入生への積極的な勧誘を行うことで、部活動入部率９５%を目指す。		
		部活動成績の表彰・活動内容や結果を掲示することで、生徒自身の活動意欲を高める。		
		校外での諸活動（総合部等）について、大会出場を支援し、高体連年間表彰では躍進校２０位以内を目指す。		
研修	授業改善に関する研修を通して、教員個々の教科指導力の向上を図る。また、複雑化・多様化する教育課題に対する専門的かつ実践的な研修を行い、学校全体の教育力を高める。	「ICTを活用したALの視点に立った授業改善」をテーマにした職員研修を計画的に行う。		
		本校の実態に応じた教育課題についての職員研修を行い、全職員の指導力向上をめざす。		
		各分掌と連携して若年教員研修を行い、若年教員の実践的指導力と使命感を養う。		
保健・安全	環境美化を推進し、学習環境の整備、充実に努める。生徒が健康で安全に学校生活が送れるように健康・安全教育を推進する。防災訓練を行うことで、減災力の育成と地域との連携も意識させる活動を行う。	美化点検を月１回実施することで、職員、生徒共に美化意識の育成及び協調性を育てる指導を行う。		
		朝礼時に健康チェックを行うことで、新型コロナウイルス感染、インフルエンザ感染防止に繋げる。		
		防災訓練を実施し、緊急時の対応だけでなく、日常から避難時の対応についての意識を育てる。		
庶務	全ての行事に関して、早期から計画・準備・実行に着手する。また、他の分掌との連携を密にし、校務の運営の円滑化を図る。様々なＰＴＡ行事に対して全職員の積極的参加を促し、保護者との連携を深めることで、学校の活性化に努める。	校内の諸行事に関して定期的に会議を開き、関連する項目の綿密な早期計画を立てる。		
		教務や学年等、他の分掌のチーフと定期的に連絡を取り合う定例会を実施する。		
		ＰＴＡの行事を充実させ、参加者が増えるように、役員会や理事会の事前打合せを毎回確実に実施する。		
教育の情報化推進	情報教育を推進し、商法機器の効果的活用と情報管理の徹底に努める。また、学校ホームページを活用し、適切な情報発信を地域社会に行う。	学校ホームページやICTの活用研修を実施し、全教員が授業活用やホームページの更新を１回以上行う。		
		定期的に情報機器の保守点検実施や個人情報の管理及び情報漏えいがないように職員に注意喚起する。		
		保護者連絡メールの登録者数を保護者全体の９５%以上にし、学校からの情報を確実に伝える。		
第１学年	（１）出席率９９%，出席皆勤１５０名 （２）５分前行動と集合時の静寂の維持 （３）自宅学習時間１時間以上 （４）進路意識の向上	生徒による点呼・号令など主体的な行動ができるように指導する。		
		朝の学習時間や総合的な探究の時間を利用して論理的な思考力を養う。		
		生活習慣や学力と進路実現との関係性をあらゆる機会の中で意識させることで、進路意識を向上させる。		
第２学年	(1)１８才成人としての自覚の涵養を図る。出席率９９%、皆勤１５０名以上。５分前行動と集合時の静寂の維持。上級生としてふさわしい雰囲気を身につける。	学年代表生徒を中心に、学年行事の企画・運営など主体的な行動できるよう指導する。		
	(2)自宅学習時間２時間以上(英語を中心とする）。小論文指導の徹底。	朝の学習時間や総合的な探求の時間を通じて論理的思考力を涵養していき、自己課題の認識と解決を目指す。		
	(3)進路指導の推進、校外模試Ａ層を５名以上。Ｂ層を５０名以上を目標とする。	FINESYSTEMを用いてデジタルサービスを活用し、重点科目（英語や苦手科目）を集中的に指導する。		
第３学年	生徒が自ら考えて行動できるための基本的な生活習慣と学習習慣の確立に向けて、授業を大切にして集中して取り組める環境整備のためにチャイム着席を促進する。また、個に応じた挑戦を教員が促して、挑むことの意義や喜びを生徒自身に体験してもらうことで、生徒一人ひとりに自己肯定感を与えつつ、他者への共感的理解ができる能力の育成を目指す。	出席率９８%以上の維持，皆勤生徒１００名以上の達成，授業開始５分前の授業準備と着席に関する教員の声掛けを徹底する。		
		日常の授業を大切にして集中して取り組む学習環境の整備、既習事項復習の徹底を図り、提出物期限完了率８０%以上の定着を図る。		
		共通テスト受験５０名、国公立大受験５０名、国公立大合格１０名、公務員合格５名、就職１００%達成、進路達成１００%を目指す。		
人権教育	気になる生徒に関する定期的な情報交換を行いながら、全職員が共通認識を持ち、いじめや人間関係トラブルの未然防止、対応に努める。教職員自身の人権意識を磨く為、各種研修会に積極的に参加する。	同推委員会を定期的に開き、気になる生徒についての情報交換を行い退学・留年・不登校防止につなげる。		
		人権・同和教育及びインクルーシブ教育に関する研修会に必ず参加し、教職員の人権意識向上を図る。		

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は Ａ　適切である Ｂ　概ね適切である Ｃ　やや不適切である Ｄ　不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見